

事例

「接続期」を幼保小で検討

— 池田市立石橋南小学校 —

1. 実践の概要

(1) 幼保小連携 段差は必要。しかしゆるやかに

石橋南小学校では、「入学当初の子どもたちの学習『意欲』を維持し続けるためには、高すぎる段差ではあきらめに、低すぎると油断や慢心になってしまう。」と考えた。そこで、幼稚園・保育所では小学校の様子を知って慣れ、入学を意識した環境づくりや遊びの設定について、小学校では幼稚園・保育所の遊びや活動を取り入れた授業形態について検討している。(研究紀要より)



資料		2つのタイプの交流	
なかよくなるための交流		教科や総合的な学習に位置付けた交流	
1年生と 5歳児	ちびっ子フェスティバルに向けて財布作りやお買い物ごっこ、給食交流・体験入学	4年生と 4歳児	社会科ごみの学習とクリーン大作戦、体育科ミニミニ運動会、給食交流
2年生と 5歳児	おもちゃランド	5年生と 5歳児	年間を通じて継続して交流している。「つながろう・ちかくに」をテーマに遊びや学校案内・水月公園への散歩等入学後は6年と1年になり小学校での異年齢交流につないでいる。

(2) ちびっ子フェスティバル (1年生・5年生と5歳児の交流)

フェスティバルの1ヶ月ほど前から5年生が幼稚園を訪ね、園児の考えを聞いて適度に援助しながら一緒に遊びコーナーづくりをしていった。

金魚すくいコーナーの金魚もレストランのランチも本物そっくりに工夫して作られていた。フェスティバルは幼稚園の園庭全体を使用して実施された。

その後、幼稚園の遊戯室に集まり、向かい合った隊形で互いに歌や演奏を披露しあった。5年生のほうきやバケツを楽器にしたリズム演奏に園児たちはもちろん、以前彼らを担任した幼稚園の教員も大変感心していた。こういう交流を重ねると、園児たちは「あんなことができるようになりたい」と小学生にあこがれをもつようになり、日々の行動に成長が見られるようになる。



資料

研究紀要に見る交流の成果

○小学生にとって、よりよく学ぶ、自分の学習を確かめる、自分の価値を実感する場となった。

- 教科や総合的な学習の時間などで学んだことを、幼児に劇化したり掲示したりしながら説明することで、相手にわかるように言葉を選んだり、調べなおさなければならないこともある。
- また、一緒に行動や製作をするには、自分がリードするところと相手に任せ見守るところを予測しなければならない。…頼られる心地よさを味わい、自信を持てるようになる。

(3) 幼保小「接続期」を設定！ 教育観のずれ？ 言葉の概念のずれ？

石橋南小学校区では、異年齢交流に加え教員連携と幼保小間の段差の研究に取り組んでいる。年に何度も異年齢交流や合同研修、連絡会を実施し、「子どもにとって本当に何が段差になっているのか」一つ一つ丁寧に整理してきた。

そして、幼保小の「接続期」を幼稚園の年長児1月～小学校1年生の6月に設定して、次のような観点で指導法等を検討している。

● 幼稚園（5歳児1月） では

- ・ 生活のリズム（トイレ、着替え等）
- ・ 小学校の集団生活・協同学習を意識した取り組み
- ・ 自信を培い、小学校への期待感をもつ
- ・ 生活・遊びを学びに（文字や数量）

「文字・数につながる」「言葉につながる」「しなやか体につながる」という3つのカテゴリーに分けて具体的な遊びを取り上げた。

などを教育課程に位置づけながら取り組む。

● 小学校（1年生6月） では

幼児教育の成果を効果的に取り入れる

- ・ 体と心をときほぐすことから始める。活動を取り入れた「ひらがな学習」を工夫する。
- ・ 子どもの主体性を生かす授業の組立を工夫する。
- ・ 配慮しているようで逆に手をかけすぎたり、配慮に欠けていたりするようなことを点検する。

このようなそれぞれの教育課程の見直しは、幼保小の三者で協働して行うことに意義がある。それぞれが独自に行っても指導法の相違を実感できず、具体性を伴わないものになる。

また、このような話し合いの中で明らかになってきた事の一つに、言葉の定義の問題がある。例えば、「教育課程」「接続」「環境」「総合的な指導」など“連携”を語る上で、キーワードとなる言葉に関して概念が明確でなく、幼保小の教員間で若干のずれがあるのである。今後は、話し合いを続けながらこのような互いの溝を埋めていき、それぞれの指導法の改善に努める必要がある。

このように石橋南小学校区では、子どもたちが頑張って超えることによって満足感や成就感が得られるような程度の段差を幼保小協働して模索している。

3. 連携のポイント

- 異年齢交流のねらいが明確で、教育課程に位置づけて取り組んでいる。
- 教員連携・相互理解が大変進み、「接続期」を設定してカリキュラムを見直し、幼保小間にある段差の解消を進めている。
- 連携学年を固定して、学校全体で組織的に幼保小連携に取り組んでいる。

